

ICF generic set を回復期リハビリ病棟入院患者に適用した場合の信頼性

分担研究者 園田茂 （藤田保健衛生大学 七栗サナトリウム）

研究代表者 筒井孝子 （国立保健医療科学院）

分担研究者 中川原譲二 （国立循環器病研究センター 脳卒中統合イメージングセンター）

分担研究者 東野定律 （静岡県立大学経営情報学部）

研究協力者 高橋勇二 （社会福祉法人聖隷福祉事業団 浜松市リハビリテーション病院）

研究要旨 項目数が多くて実用が危惧される WHO の ICF において、最も項目数を減らした組合せである generic set 7 項目の信頼性を検討した。回復期リハビリ病棟入院患者 5 名を医師、看護師、療法士、社会福祉士が別個に採点した一致係数  $\kappa$  は 0.10～0.22 と非常に低い一致であった。4 検者からのアンケートでは「やや難しい/あまり役に立たない」以上の評価が 75%と、現場への導入は難しい/状態把握に役立たないとの認識が強かった。ICF 項目の操作的定義の追加などの方策が必要であろう。

## A. 研究目的

WHO の ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health) の枠組み(概念)で障害・生活を捉えることは重要であるものの、実際のデータ収集ツールとしての ICF の実力も認識しておかなければならない。ICF の多数の項目から抽出された core set がいろいろ考案されており、その中の最小項目数と思われる generic set の信頼性を検討した。

## B. 研究対象と方法

ICF の generic set は b130 活力と欲動の機能、b152 情動機能、b280 痛みの感覚、d230 日課の遂行、d450 歩行、d455 移動、d850 報酬を伴う仕事の 7 項目(d コードには実行、能力の 2 種類の採点が必要なので、それを合わせると合計 11 項目)からなる評価である。この generic set の項目定義をリハビリ専門職 4 名(医師、看護師、理学療法士、社会福祉士、経験年数 7 年から 28

年)に読ませた。

採点対象は回復期リハビリ病棟入院中の 5 名の患者とした。男性 3 名、女性 2 名、平均年齢 69.4 歳、脳梗塞 4 名、脳挫傷 1 名、FIM 運動項目の平均が 75.8、FIM 認知項目の平均が 28.4、日常生活機能評価が平均 2.2 点、看護必要度 A 項目が 0 点、発症から調査までが平均 58 日であった。

評価者 4 名がお互いに相談せずに患者 5 名の generic set を採点し、さらに採点へのコメントを記録した。その後(a)ICF コード化作業の難易度、(b)患者の状態変化を把握するための情報として役に立つか、(c)多職種が患者の状況を共通して理解するための情報として役に立つか、(d)現場への導入可能性、に関するアンケートを行った。アンケートは(a)(d)では 1 非常に易しい 2 易しい 3 まあ易しい 4 どちらともいえない 5 やや難しい 6 難しい 7 非常に難しい、(b)(c)では、1 非常に役に立つ 2 役に立つ 3 まあ役

に立つ 4 どちらともいえない 5 あまり役立たない 6 役立たない 7 全く役立たない、とした。

### C. 研究結果

全試行(11 項目×5 患者)の 2 評価者間の一致係数  $\kappa$  は、評価者の組合せにより 0.10～0.22 であり、非常に低い一致であった(表 4-1)。また、「詳細不明」と「非該当」の選択は 14.5%にもなった(表 4-2)。

表 4-1 2 評価者間の 係数

職種間	データ 個数	係数	判定
Dr-Ns	n=55	0.149	低い一致
Dr-PT	n=55	0.184	低い一致
Dr-SW	n=55	0.219	低い一致
Ns-PT	n=55	0.220	低い一致
Ns-SW	n=55	0.104	低い一致
PT-SW	n=55	0.158	低い一致

係数 0.6 であれば評価者間の一致度は十分高い

表 4-2 ICF 評価点数と採点結果

評価 点数	点数の意味	基準	採点 件数	構成比
0	問題なし(困難無し)	0-4%	77	35.0%
1	軽度の問題(困難)	5-24%	48	21.8%
2	中等度の問題(困難)	25-49%	18	8.2%
3	重度の問題(困難)	50-95%	26	11.8%
4	完全な問題(困難)	96-100%	19	8.6%
8	詳細不明	-	12	5.5%
9	非該当	-	20	9.1%
		合計	220	100.0%

4 人の評点は何通りに分かれたか(1 が完全一致、4 が完全不一致)は 11 項目で 1.8-3.0 通りに分布し、その平均は 2.5 通りであった(表 4-3)。

表 4-3 4 人の評点は何通りに分かれたか

	平均値
b130 活力と欲動の機能	2
b152 情動機能	2
b280 痛みの感覚	2
d230 日課の遂行実行	2.2
d230 日課の遂行能力	3
d450 歩行実行	1.8
d450 歩行能力	3
d455 移動実行	3.2
d455 移動能力	2.8
d850 報酬を伴う仕事実行	2.8
d850 報酬を伴う仕事能力	3
全項目	2.5

評価者アンケートのコメントからは、定義の曖昧さ、下位項目の不統一、採点の手間などが伺えた。4 検者からのアンケートでは、「やや難しい/あまり役に立たない」以上の評価が 75%であり、コード化は難しい、患者の状態把握や共通理解に役立たない、現場への導入は難しい、が共通認識であった(図 4-1)。

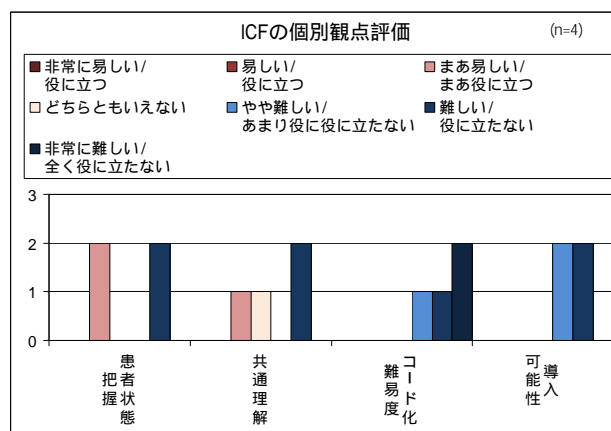


図 4-1 ICF 評価

### D. 考察

我々の信頼性結果は Kohler ら(J Rehabil Med 45: 881-887, 2013)の  $\kappa$  値(0.21 から 0.81)より低い。これは Kohler らは ADL 評価の FIM との比較を研究目的としていて、ADL に関連した項目を中心に調べていたことに起因する可能性がある。

ICF の 4 桁コードの採点の定義は曖昧で、その下位項目をどう扱って良いのか決められておらず、例えば移動の下位項目(這う、登り降り、

走る、跳ぶ、水泳)のどれかが出来てどれかが出来ない場合にどのように採点するのか判然としない。

このような現在の定義のままで臨床現場に導入すると、今回の研究のような困惑が現場に生じ、データが得られたとしても信頼性の非常に低いものとなろう。

## **E. 結論**

ICF の core set のなかの generic set の信頼性を検討した。一致係数  $\kappa$  が 0.10-0.22 と低く、評価者からは定義の曖昧さ、下位項目の不統一、採点の手間などのコメントを得た。ICF をコード化の手段として用いていくためには、操作的定義の追加などにより、採点の信頼性を上げる工夫が必要であろう。

ICF は WHO により定められた国際的な概念であり、これを活用してデータを蓄積する意義もあろう。その際には、項目の精選、操作的定義の追加などにより、採点の信頼性を上げる工夫が必要であろう。

## **F. 健康危険情報**

該当なし

## **G. 研究発表**

### **1. 原著論文**

該当なし

### **2. 学会発表**

該当なし

## **H. 知的財産権の出願・登録状況**

該当なし

図表1 サンプル数

採点対象 (入院患者)	患者1名の 評価項目	評価者 (病院勤務専門職)	回収 ICFコード票	回収 評価者アンケート
5名	7項目 (11評価)	4名	55票 (うち総合票0票)	4票 (4設問限定)

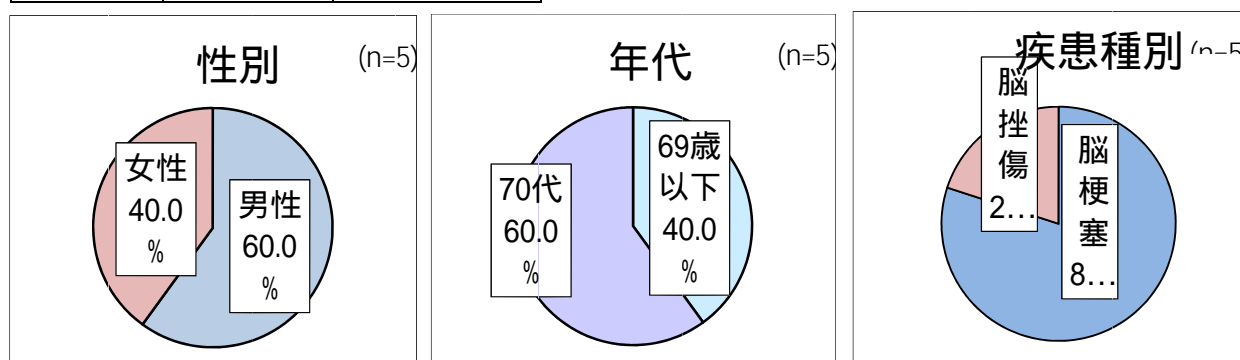
図表2 配布物

	入院患者向け	評価者向け	協力施設事務局向け
1	ICF 試行評価の説明書	調査実施マニュアル	ICF 試行評価実施計画書
2	同意文書	ICF コード記入票(図表 11)	患者基本情報一覧表(図表 13)
3	同意撤回書	評価者アンケート(図表 12)	FIM 評価票
4			看護必要度評価票
5			日常生活機能評価

印:調査終了時の回収対象

図表3 採点対象者(入院患者)の基本属性

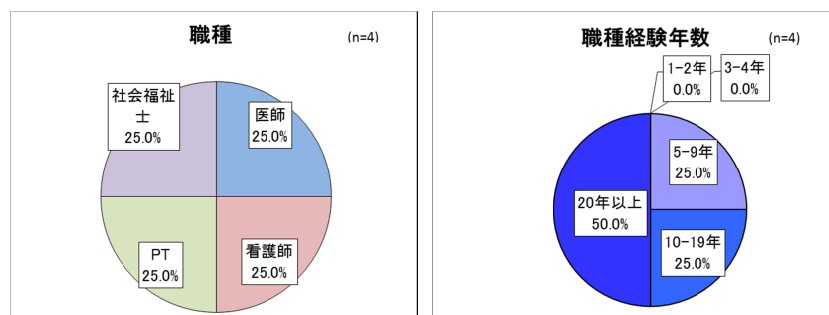
性別	年齢	疾患種別
男性 3名	58~79歳	脳梗塞4名
女性 2名	(平均69.4歳)	脳挫傷1名



評価時期	日常生活 機能評価	FIM 運動	FIM 認知	FIM 合計	看護 必要度A	看護 必要度B	看護必要度 A+B
退院時	(平均2.2)	69~86 (平均78.5)	18~35 (平均28.4)	93~121 (平均104.2)	0 (平均0.0)	0~6 (平均2.2)	0~6 (平均2.2)

図表4 評価者(病院勤務専門職)の基本属性

職種	人数	経験年数
医師Dr	1名	28年
看護師Ns	1名	25年
理学療法士PT	1名	17年
介護福祉士	1名	7年
合計	4名	19.3年



図表5 ICF 評価点（基準）と採点結果



採点 点数	点数の意味	基準	採点 件数	構成 比
0	問題なし(困難無し)	0-4%	77	35.0%
1	軽度の問題(困難)	5-24%	48	21.8%
2	中等度の問題(困難)	25-49%	18	8.2%
3	重度の問題(困難)	50-95%	26	11.8%
4	完全な問題(困難)	96-100%	19	8.6%
8	詳細不明	-	12	5.5%
9	非該当	-	20	9.1%
	合計		220	100.0%

図表6 Generic Setの評価項目と採点結果

【患者5名×4職種の採点結果（評価項目別の点数構成比）】

評価項目	評価点	採点 件数	点数 「0」	点数 「1」	点数 「2」	点数 「3」	点数 「4」	点数 「8」	点数 「9」	無回 答
b130 活力と欲動の機能	程度・大きさ	20	55.0%	45.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
b152 情動機能	程度・大きさ	20	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
b280 痛みの感覚	程度・大きさ	20	60.0%	30.0%	5.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
d230 日課の遂行	実行状況	20	60.0%	30.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%
	能力(支援なし)	20	50.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
d450 歩行	実行状況	20	35.0%	50.0%	5.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	能力(支援なし)	20	10.0%	30.0%	20.0%	15.0%	15.0%	10.0%	0.0%	0.0%
d455 移動	実行状況	20	15.0%	5.0%	15.0%	20.0%	15.0%	5.0%	25.0%	0.0%
	能力(支援なし)	20	10.0%	5.0%	10.0%	25.0%	40.0%	5.0%	5.0%	0.0%
d850 報酬を伴う仕事	実行状況	20	10.0%	5.0%	5.0%	25.0%	15.0%	5.0%	35.0%	0.0%
	能力(支援なし)	20	10.0%	0.0%	15.0%	20.0%	10.0%	10.0%	35.0%	0.0%
	全項目	220	35.0%	21.8%	8.2%	11.8%	8.6%	5.5%	9.1%	0.0%

【患者5名の全評価データ】

評価項目	評価点	採点 件数	点数平均 1	種類平均 2	一致率 3
b130 活力と欲動の機能	程度・大きさ	5	0.45	2.0	0.0%
b152 情動機能	程度・大きさ	5	0.30	2.0	0.0%
b280 痛みの感覚	程度・大きさ	5	0.55	1.8	40.0%
d230 日課の遂行	実行状況	5	0.80	2.2	20.0%
	能力(支援なし)	5	2.20	3.0	0.0%
d450 歩行	実行状況	5	0.90	1.8	40.0%
	能力(支援なし)	5	2.55	3.0	0.0%
d455 移動	実行状況	5	4.20	3.2	0.0%
	能力(支援なし)	5	3.45	2.8	0.0%
d850 報酬を伴う仕事	実行状況	5	5.05	2.8	0.0%
	能力(支援なし)	5	5.25	3.0	0.0%
	全項目	55	2.34	2.5	9.1%

- ( 1) 点数平均: 無回答を除外した採点(1-4, 8, 9)の平均値  
 ( 2) 種類平均: 完全一致(1種類)～完全不一致(4種類)までの回答種類数(評価パターン)の平均値  
 ( 3) 一致率: 採点件数に占める完全一致(1種類)の割合。全て完全一致であれば100.0%となる。

図表7 評価者（職種）間の 係数（偶然によらない一致率）

【 係数（kappa coefficient）の算出結果】

職種間	データ 個数	係数	判定
Dr-Ns	n=55	0.149	低い一致
Dr-PT	n=55	0.184	低い一致
Dr-SW	n=55	0.219	低い一致
Ns-PT	n=55	0.220	低い一致
Ns-SW	n=55	0.104	低い一致
PT-SW	n=55	0.158	低い一致

【 係数の判定基準】

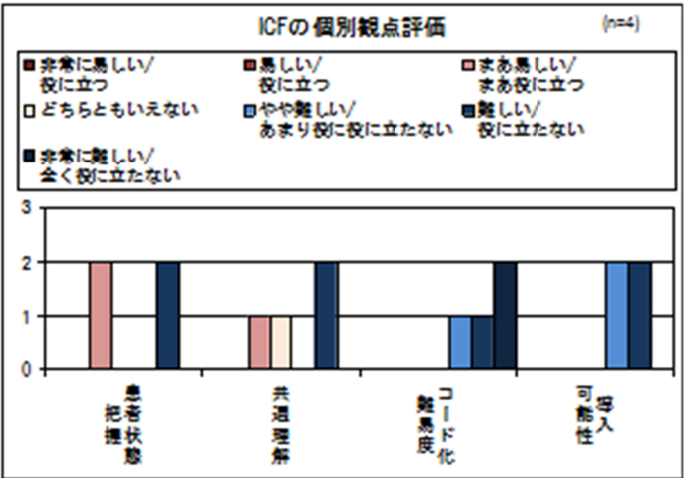
係数 0.6であれば評価者間の一致度は十分高い

係数	判定
0～0.40	低い一致 (poor agreement)
0.41～0.60	中等度の一致 (moderate)
0.61～0.80	かなりの一致 (good to fair)
0.81～	高い一致 (excellent)

算出式

係数（偶然によらない一致率） = 
$$\frac{\text{見かけ上の一致率のうち、偶然によらない一致率}}{\text{全体一致率のうち、偶然によらない一致率}}$$

図表9 評価者アンケート（ICFの評価）



図表11 ICFコード記入票

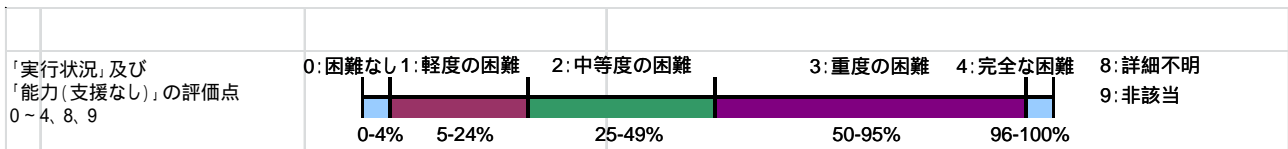
## ICF コード記入票（七栗サナトリウム）

患者コード	記入者コード	記入日
<p>「程度・大きさ」の評価点 0～4、8、9</p> <p>0:問題なし 1:軽度の問題 2:中等度の問題 3:重度の問題 4:完全な問題 8:詳細不明 9:非該当</p> <p>0-4% 5-24% 25-49% 50-95% 96-100%</p>		
<p>問1. 各項目に「程度・大きさ」の評価点0-9を記入(下位項目の評価を踏まえて回答) また、欄に、評価項目の問題点や気づいた点を記入</p>		
評価項目	定義	第1評価点 程度・大きさ
b130 活力と欲動の機能	個別的なニーズと全体的な目標を首尾一貫して達成させるような、生理的および心理的機序としての全般的精神機能。 除かれるもの 意識機能、気質と人格の機能、睡眠機能、精神運動機能、情動機能	
b1300 活力レベル	活力と精力を生む精神機能。	
b1301 動機付け	行為の誘発、すなわち意識的または無意識的な行為への推進力を生む精神機能。	
b1302 食欲	自然な切望、欲望、特に飲食物への自然かつ反復的な欲望を生む精神機能。	
b1303 渴望	物質(乱用の可能性のあるものを含む)の使用へとかりたてる精神機能。	
b1304 衝動の制御	突如何かをしたいという強い衝動を制御し、それに抵抗する精神機能。	
b1308 その他の特定の、活力と欲動の機能		
b1309 詳細不明の、活力と欲動の機能		
b152 情動機能	こころの過程における感情的要素に関連する個別的な精神機能。 除かれるもの 気質と人格の機能、活力と欲動の機能	程度・大きさ
b1520 情動の適切性	状況に見合った感情を生む精神機能。例えば、よい知らせを聞いたときの幸福感。	
b1521 情動の制御	感情の経験と表出を制御する精神機能。	
b1522 情動の範囲	愛情、憎しみ、不安、悲しみ、喜び、恐れ、怒りなどといった感情を喚起される経験の幅(スペクトラム)に関する精神機能。	
b1528 その他の特定の情動機能		
b1529 詳細不明の情動機能		

「程度・大きさ」の評価点 0～4、8、9		0:問題なし 1:軽度の問題 2:中等度の問題 3:重度の問題 4:完全な問題 8:詳細不明 9:非該当				
		0-4%	5-24%	25-49%	50-95%	96-100%
<b>問1. 各項目に「程度・大きさ」の評価点0-9を記入(下位項目の評価を踏まえて回答)</b> <b>また、欄に、評価項目の問題点や気付いた点を記入</b>						
評価項目	定義	第1評価点 程度・大きさ				
b280 痛みの感覚	身体部位の損傷やその可能性を示す、不愉快な感覚。					
b2800 全身的な痛み	身体部位の損傷やその可能性を示す、全身の不愉快な感覚。					
b2801 身体の局所的な痛み	身体部位の損傷やその可能性を示す、特定の部位やいくつかの身体部位の不愉快な感覚。					
b28010 頭頸部の痛み	身体部位の損傷やその可能性を示す、頭部や頸部の不愉快な感覚。					
b28011 胸部の痛み	身体部位の損傷やその可能性を示す、胸部の不愉快な感覚。					
b28012 腹部の痛み	身体部位の損傷やその可能性を示す、腹部の不愉快な感覚。 含まれるもの 骨盤部の痛み。					
b28013 背部の痛み	身体部位の損傷やその可能性を示す、背部の不愉快な感覚。 含まれるもの 大幹の痛み、腰痛。					
b28014 上肢の痛み	身体部位の損傷やその可能性を示す、上肢(手を含む)の不愉快な感覚。					
b28015 下肢の痛み	身体部位の損傷やその可能性を示す、下肢の不愉快な感覚。					
b28016 関節の痛み	身体部位の損傷やその可能性を示す、小関節や大関節を含む関節の不愉快な感覚。 含まれるもの 股関節の痛み、肩関節の痛み。					
b28018 その他の特定の局所的な痛み						
b28019 詳細不明の局所的な痛み						
b2802 身体の複数部位の痛み	複数の身体部位の損傷やその可能性を示す不愉快な感覚。					
b2803 同一皮節内の放散痛	同じ神経根に支配された皮節内にある身体部位の、損傷やその可能性を示す不愉快な感覚。					
b2804 体節性あるいは領域性の放散痛	同じ神経根には支配されない、異なる皮節にある身体部位の、損傷やその可能性を示す不愉快な感覚。					



「実行状況」及び 「能力(支援なし)」の評価点 0～4、8、9	0:困難なし 1:軽度の困難 2:中等度の困難 3:重度の困難 4:完全な困難 8:詳細不明 9:非該当 		
<b>問2. 各項目に「実行状況」と「能力(支援なし)」の評価点0-9を記入(下位項目の状態を踏まえて回答)</b> <b>また、欄に、評価項目の問題点や気付いた点を記入</b>			
<b>評価項目</b>	<b>定義</b>	<b>第1評価点</b>	<b>第2評価点</b>
d230 日課の遂行	日々の手続きや義務に必要なことを、計画、管理、達成するために、単純な行為または複雑で調整された行為の時間を配分し、計画を立てること。	実行状況	能力(支援なし)
d2301 日課の管理	日々の手続きや義務に必要なことを計画し、管理するために、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。		
d2302 日課の達成	日々の手続きや義務に必要なことを達成するために、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。		
d2303 自分の活動レベルの管理	日々の手続きや義務に必要なエネルギーや時間を調整するための、行為や行動を遂行すること。		
d2308 その他の特定の、日課の遂行			
d2309 詳細不明の、日課の遂行			
d450 歩行	常に片方の足が地面についた状態で、一歩一歩、足を動かすこと。例えば、散歩、ぶらぶら歩き、前後左右への歩行、除かれるもの 乗り移り(移乗)、移動	実行状況	能力(支援なし)
d4500 短距離歩行	1キロメートル未満の歩行。例えば、部屋や廊下、建物の中、屋外の短距離の歩行。		
d4501 長距離歩行	1キロメートル以上の歩行。例えば、村内あるいは町内の歩行、村から村への歩行、広々とした土地での歩行。		
d4502 さまざまな地面や床面上の歩行	傾斜したり、凹凸があったり、あるいは動く床面での歩行。例えば、草の上、砂利、氷、雪の上での歩行。船、電車、その他の乗り物の上または中での歩行。		
d4503 障害物を避けての歩行	動いていたり静止している物、人、動物、乗り物などを避けるために必要な歩行。例えば、市場あるいは店の中での歩行、交通渋滞やその他の混雑した場所での歩行。		
d4508 その他の特定の歩行			
d4509 詳細不明の歩行			



**問2. 各項目に「実行状況」と「能力(支援なし)」の評価点0-9を記入(下位項目の状態を踏まえて回答)**

また、欄に、評価項目の問題点や気付いた点を記入

評価項目	定義	第1評価点 実行状況	第2評価点 能力(支援なし)
d455 移動	歩行以外の方法によって、ある場所から別の場所へと身体全体を移動させること。 例えば、岩を登る、通りを駆ける、スキップする、疾走する、跳ぶ、とんぼ返りする、 障害物の周囲を走り回る。 除かれるもの 乗り移り(移乗)、歩行		
d4550 這うこと	手や腕、それと膝を使って、うつぶせのままで身体全体をある場所から別の場所へと移動させること。		
d4551 登り降りすること	段、岩、梯子、階段、舗道の縁石などの床面やその他の物の上で、身体全体を上方あるいは下方へと移動させること。		
d4552 走ること	両方の足が同時に地面から離れている時がある素早い足取りで移動すること。		
d4553 跳ぶこと	両足を曲げて伸ばすことによって地面から離れ、上方に動くこと。例えば、片足でのジャンプ、ホップ、スキップ、水中へのジャンプや飛び込み。		
d4554 水泳	身体を水底につけない状態で、手足や全身の動きにより、水中を進めること。		
d4558 その他の特定の移動			
d4559 詳細不明の移動			
d850 報酬を伴う仕事	賃金を得て、被雇用者(常勤・非常勤を問わず)や自営業者として、職業、一般職、専門職、その他の雇用形態での労働に従事すること。例えば、職探し、就職、仕事上必要な課題の遂行、要求されている時間通りの仕事への従事、他の労働者を監督すること、監督されること、個人またはグループで必要な仕事の遂行。	実行状況	能力(支援なし)
d8500 自営業	個人が見つけたしたり創出したり、あるいは公式の雇用関係なしで他人から請け負った、報酬を伴う仕事に従事すること。例えば、季節農業労働、自由契約の作家やコンサルタントとしての仕事、短期契約の仕事、芸術家や工芸家としての仕事、店やその他のビジネスの所有や経営。		
d8501 非常勤雇用	賃金を得て、被雇用者として、非常勤の仕事に従事すること。例えば、職探し、就職、仕事上必要な課題の遂行、要求されている時間通りの仕事への従事、他の労働者を監督すること、監督されること、個人またはグループで必要な仕事の遂行。		
d8502 常勤雇用	賃金を得て、被雇用者として、常勤の仕事に従事すること。例えば、職探し、就職、仕事上必要な課題の遂行、要求されている時間通りの仕事への従事、他の労働者を監督すること、監督されること、個人またはグループで必要な仕事の遂行。		
d8508 その他の特定の、報酬を伴う仕事			
d8508 その他の特定の、報酬を伴う仕事			

図表12 評価者アンケート票

ICF 試行評価 評価者(ICF コード記入者)アンケート			
評価者コード			

ICF 試行評価に参加・体験してのご意見・感想について

**問1. 「ICF コード化作業」の難易度について、あなたのご意見・感想は？(1つ:           に)**

非常に易しい	易しい	まあ易しい	どちらともいえない
やや難しい	難しい	非常に難しい	

**問2. とりわけ、どのようなところが難しかったですか、あるいは、評価が容易でしたか？**

**問3. 「ICF コード」は、医療・介護現場において、患者の状態変化を把握するための情報として役に立ちますか？(1つ:           に)**

非常に役に立つ	役に立つ	まあ役に立つ	どちらともいえない
あまり役立たない	役立たない	全く役立たない	

**問4. 「ICF コード」は、医療・介護現場において、多職種が患者の状況を共通して理解するための情報として役に立ちますか？(1つ:           に)**

非常に役に立つ	役に立つ	まあ役に立つ	どちらともいえない
あまり役立たない	役立たない	全く役立たない	

**問5. 問3と問4について具体的にどのような役に立ちますか、あるいは役に立たないとしたらどのような理由からですか？**

問1. 「ICF コード」の医療・介護現場への導入可能性について、あなたのご意見・感想は？  
(1つ： に)

非常に易しい	易しい	まあ易しい	どちらともいえない
やや難しい	難しい	非常に難しい	

問2. 導入のためには、具体的にどのような改善が必要だと思いますか？

--

問3. あなたが普段利用しているアセスメント手法と比較し、ICF コードのメリット・デメリットがあれば、お教え下さい。

(1) あなたが普段利用している手法は？(当てはまるもの全ての に)

FIM	NIHSS	Barthel Index	日常生活機能評価
その他 ( )			

(2) 上記手法と比較した場合の ICF コードのメリット・デメリットは？

メリット	
デメリット	

あなたご自身と勤務先について

問4. あなたの現在の職種は？(1つ： に、複数職種兼務の場合は主なもの)

医師	看護師	理学療法士	作業療法士
前記以外の医療職 ( )		医療職以外 ( )	

問5. 現在の職種の経験年数は？ 職種経験年数は 約 ( 年 )

アンケートへのご協力ありがとうございました。(回答は全て統計的に処理し、氏名等を公表することは一切ございません。)

図表13 患者基本情報一覧票

ICF 試行評価 患者基本情報一覧					
	患者コード	性別	年齢	疾患名	DPC コード
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

